

第四回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：茜

【日時】

10月14日（金）10：00～12：00

【場所】

防災センター4階 研修室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：今日の話し合いの結果を確認しよう

ステップ2：中間発表の骨子をつくろう

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントより、前回の話し合いの内容確認と今回の趣旨説明がなされた。

ステップ2：中間発表の骨子をつくろう

【本日の進め方について】

- ・ 「こうなってほしい荒川の姿」を話し合うなら、生まれてから年齢を経ていく間のライフステージ順に沿って、話し合い、そういった形で提言をまとめるのが良いのではないか。
- ・ そのようにした方が生活により近くてわかりやすくなるので賛成だ。

【子どもが生まれて小学校に入るまでの世代の人々にとっての目指すべき姿の議論】

- ・ 「こどもを生みやすいまち」を考えることが重要だろう。
- ・ 近くに頼れる親戚が少なく、サポートしてくれる人がいなかったため、子供をたくさん産むことはできなかった。荒川区のファミリーサポートを利用しようとしたが、知らない人に子育てを任せるのは抵抗があり、子供が幼稚園に入園するまで、子育ては大変だった。
- ・ ファミリーサポートは、会員にならないと保育をする人の情報等が入らず、初めての人に子供を預けなければならないので、抵抗があった。こちらが預けに行くというのではなく、利用者の自宅に来てくれるサービスもあればよかった。
- ・ 子どもを育てていて一番気になるのは病気のことである。大人が病気等の緊急時に子供の面倒を見てくれる体制があれば良い。
- ・ 荒川区は他区と比べれば、救急医療は恵まれていると思うが、もっと近くの病院で夜間交代しながら、診てもらえる仕組みがあれば良い。
- ・ 行政の視点から見ると、管轄が違うのかもしれないが、親の視点からでは一緒なので荒川区でも、他地域にあるような幼稚園と保育園の一体化を考えてほしい。
- ・ 保育園が少なく、入園の審査が厳しい。仕事を探すために保育が必要なのに、仕事が

決まってからでないで申込みができないというのは少しおかしいのではないか。行政側は、もっと融通を利かせたシステム作りをしてほしい。

- ・ 子供たちの大切な時期に関わっている幼稚園の先生の仕事をもっと評価し、生涯の仕事として成り立つような体制づくりが必要である。
- ・ 保育士等の給与などの見直しも必要だと思う。一番大切な時期なので、もっと仕事の評価されていていいはず。給与水準を高くすることで、先生の質の向上につながるのではないか。

【小学校から中学校までのステージの人々にとっての目指すべきまちの姿の議論】

- ・ 荒川区は英語特区となっているが、実際は英語などよりもより基礎学力の充実させることのほうが重要だと思うし、そちらへのニーズも高いと思う。
- ・ 英語教育は教育特区として全員に行うというのではなく英語に興味がある人の選択制にした方がよいのではないか。
- ・ 国際交流の面で考えると、英語だけではなく、いろいろな国の人と触れ合えるように、いろいろな言語も交えながら世界の多様性を考えさせる教育の方が重要である。
- ・ 英語と日本語の言語体系は違うので、子供が小さいうちから英語を習わせるのは、疑問がある。
- ・ 最近の子供は、知的好奇心がなくなっている。知識を得てから、更に一步踏み出すことが無くなっている。知識を得る事、学ぶ事への謙虚さが必要である。
- ・ 教員は、教育研修等で時間を取られ、授業内容を充実させるための準備時間がない。もっと教員がきちんとした授業ができるような環境づくりが必要である。
- ・ 学級運営と教科指導を同じ人が行うというのではなく、それぞれの専門家が分けて行うといった手法をとっても良いのではないか。
- ・ 私立学校と公立学校の教育内容自体の質の差はあまりないと思うが、高い教育レベルのイメージを持つ「私立神話」がある。公立もそういう神話が作り出せたらよいのではないか。
- ・ 荒川区独自の厳しい教員採用試験を実施して、採用後は手厚い待遇をすれば、教員の質の向上になるのではないか。
- ・ 地元の人が参画し、支援できる、区立の中高一貫校をつくりたい。

【住み・働く生活者となったステージの人々にとっての目指すべきまちの姿の議論】

- ・ 大型スーパーと地元の商店街が共存共栄でき、荒川区ですべて買物ができるまちづくりができれば、人が集まるのではないか。
- ・ 日曜日は一番買物に行きたい日だが、商店街は休みである。日曜日の営業も考えてほしい。
- ・ もっと気軽に自転車が置ける駐輪場があればよい。
- ・ 高層住宅で育った子供のコミュニケーション能力の低下は問題である。
- ・ 「もったいない」の思想が基にあるライフスタイルが、素敵だと思わせるようなブームを、荒川から発信したい。
- ・ マンションの建設が多いが、区の都市計画が必要だと思う。近代的なマンションがあ

る地域ある一方、下町情緒が残る町並みがあるような「荒川テーマパーク」的なまちづくりをしてほしい。

- ・ 一貫した都市計画をしてほしい。例えば、公募で、荒川区内で才能ある人のアイデアを採用するのもよいと思う。
- ・ 自転車で移動しやすいようなまちづくりが荒川では良いのではないだろうか。
- ・ 施設の運営に関して、月曜日は祝日や代休になったりする機会が多いが、働いていた人の中には月曜日が休みだという人も多いので図書館や自然公園が月曜日休館はやめてほしい。利用する側の利便も考えてほしい。年中無休にしてもよいのでは。
- ・ 荒川区の図書館は貸出冊数の制限がなく、利用しやすい。

【高齢者と呼ばれるようになったステージの人々にとっての目指すべきまちの姿】

- ・ 自然に高齢者が集まる場所、居心地がよい場所を作れたらよい。
- ・ 銭湯等が高齢者のコミュニケーションの場になっており、公共の場と化している。公共性が高い場所を優遇し、支援をしてほしい。
- ・ 高齢者の雇用の問題も含めて、荒川区の産業全体の見直しが必要である。弱肉強食の世界ではなく、互いがささえあえるシステムづくりが必要である。

【ライフステージを越えた枠組みとして目指すべきまち姿】

- ・ 在日の人との関わりで、互いに仲良く暮らして行ける方法を考えたい。
- ・ 区内在住外国人の数を考えると教育特区は英語ではなく、ハングル語にしてみたらどうか。
- ・ 長く日本に居住している外国人の方に対して、区レベルの選挙権を与えてみてはどうか。
- ・ 子供は囲碁クラブを通じて、在日の子供とのコミュニケーションがうまくいっている。
- ・ 荒川区に、横浜の中華街のようなコリアンタウンをつくれればよいのではないか。
- ・ 現在の外国人の行政的な処遇はどうなっているのか？

【回答】国籍→国籍はないが、住民票は手続き等の違いもあるが、外国人登録証が兼ねている。選挙権→ない。健康保険→あり。生活保護→あり。

- ・ 荒川区の外国人の8割は、東アジア系である。
- ・ 区の財産は人間である。
- ・ 区役所の中に「コンシェルジュ」のような、住民の意見、質問に答えて、意見をまとめることができる場所があればいい。

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

本日の話し合いの内容確認がなされた。

ステップ4：その他

【その他】

11月中間報告会の日程についての報告がなされた。

【次回について】

中間報告会に向けての草案を作成するので、それを基に、再度確認しながら、話し合うことにした。

次回日程は11月7日(月)の10:00より。